

日本学術会議第82回総会報告

日本学術会議第82回総会は、4月15～17日の3日間開かれた。

第1日は、9時35分開会、ただちに会長報告が行われた。会長は、第11期では各種委員会の本格的活動の開始までに、半年間を費やした経験にかんがみ、今期は活動計画委員会をつめた結果に基づいて、今総会において各種委員会を発足させ、実質的審議を早めたいという方針を述べた。なお、政府の科学技術政策の新しい動向に注目し、科学技術会議については、第80回総会の要望「工学技術振興の方途を早急に講ずることについて」との関連もあり、今期からはやや詳細に報告する旨を述べた。続いて、日本学術振興会、広報、財務、国際会議主催検討および工学技術振興の運営審議会付置各委員会報告があった。

各部報告は、書面により行われ、国際学術交流、国際協力事業両委員会も書面をもって報告に代えた。学問・思想の自由委員会は口頭により第11期に採択した「科学者憲章」を国民に呼びかけ、それを普及するため、5月28日講演会を本会議講堂で開催することを報告した。第12期活動計画委員会の報告をうけて、会長から年度末の多忙な時期に全会員の協力の下に精力的に作業を続けた同委員会と、事務局職員の献身的協力への謝辞が述べられた。

休憩の後、「第12期における日本学術会議の活動要綱について（申合せ）」の提案、審議が行われた。この提案は総会前日の連合部会でも報告されたので、提案理由は要綱分科会委員長の補足的説明のみとした。続いて24～25名の会員から、活発な質問、意見がだされ、日本学術会議と各省庁との関係や、本会議の基本性格にふれる問題から、活動の具体的内容にいたるまで、論点は多岐にわたった。13時7分再開、それらの意見をふまえ、文言上の修正も加えた提案が圧倒的多数で採択された。本要綱では、(1)学問研究の長期的展望の確立、(2)人間の可能性を展開させる教育の探究、(3)平和に貢献する科学者の責務の遂行、が今期活動の重要目標とされている。

ついで、「第12期における課題および各種委員会（研究連絡委員会を除く）の整備について（申合せ）」が提案され、(1)委員会の構成および運営上の事項、(2)委員会の任務、課題について、(3)運営審議会付置小委員会について説明された。常置委員会としては国際学術交流、学術

体制、研究費問題、長期研究計画、科学者の地位および学問・思想の自由の6委員会、特別委員会としては、平和と科学、教育問題、科学・技術振興機構、エネルギー・原子力、学術情報・資料、発展途上国学術協力問題、自然災害問題、環境問題、生物資源および国際協力事業の10委員会が設置された。なお、運営審議会付置として広報等毎期常設の委員会の外に日本学術会議改革、研連検討、沖縄学術連絡の各小委員会が設置された。

休憩後、15時17分「第12期における研究連絡委員会問題の根本的改革について（申合せ）」の提案があり、数名の会員から質問がだされ、翌日になお審議を継続することとなった。

第2日は10時2分再開、冒頭、第1日に採択された「課題及び各種委員会の整備について」の文言修正について報告があり承認された。

ついで、前日に引き続き「研究連絡委員会問題の根本的改革について」審議が行われ、活発な意見が述べられた。

さらに第12期における根本的な改革に至るまでの暫定的措置をとりきめる「第12期における研究連絡委員会の組織・運営に関する当面の措置について（申合せ）」が提案され質疑がかわされた。12時45分再開後の総会で、文言の修正を行なった前記二つの提案が採択された。

13時より各部会が開かれ、常置、特別、運営審議会付置の各委員会委員の選出を行なった。それに基づいて16時より各常置委員会、16時30分より各特別委員会が開かれ、委員長、幹事を選出した。

第3日は10時より前日に引き続き各常置、特別委員会、15時まで開かれた。各委員会では、今総会中に役員決定のみでなく今期の委員会活動について実質的審議をはじめるという趣旨に基づき、委員会の任務、方針が討議された。15時より運営審議会付置の各委員会およびICSU等の分科会が開かれ、ここでも、それぞれの任務、審議事項が議せられ、役員が決定された。かくして、第12期のすべての委員会が早くも体制を整え、活動を開始することとなった。

総会の出席率は、第1日91.9%、第2日95.2%第3日93.3%であった。

(日本学術会議広報委員会)